



## 世界を知る It knows the world.

このページは世界を知るをテーマに「国際協力」については、独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流、協力分野で活躍している皆さんのご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

### いま 東ティモールの現在

青年海外協力隊 平成23年度1次隊 **矢加部 咲**さん  
(東ティモール派遣、職種:写真)

みなさんは“東ティモール”という国を知っていますか？東ティモール民主共和国は、インドネシアの東端にあるティモール島という小さな島の東半分を国土とする国です。国の面積は日本の岩手県と同じくらいの大きさ。2002年にアジアで一番新しい国として独立しました。人口約110万人の70%が30歳以下、平均年齢は約17歳



という若さに満ちた国です。

独立から10年が過ぎた現在、町並みは日々変わりつつあります。昨年は、国内初の映画館やショッピングモールがオープンしました。しかし、教育や医療など課題が残っている部分も多くあります。

東ティモールの若者は、そんな母国が抱える実情をしっかりと受け止め、日々たくましく生きています。彼らの多くは、家族や自分の生活を助けるためや学校に行くために働いてお金を稼いでいます。14歳から市場で働き自分で学費を稼いでいるという少女マリアは、「一番好きなこと



は？」と聞かれて「勉強すること。そして、ちょっとだけ遊びたい。」と答えました。学校に行かず、移動式のキオスクで物を売って生活する12歳の少年シプリは、夜は台車の側で眠ります。このように彼らの人生は、家庭や社会の環境に大きく左右されます。

若者の多いティモールでは、雇用の不足も深刻な問題です。仕事を見つけることができず、暇を持って余してギャングに入ったり、お酒に溺れたりする若者も少なくありません。そして、一度道を外れてしまった彼らをサポートする社会的な余裕が、東ティモールにはまだありません。



しかし、何かひとつ前進するきっかけをつかむだけで、彼らは大きく変わっていきます。前に進み始めた彼らは言います。「どんな両親のもとに生まれたか、過去に何があったか、そんなことについて考えなくていい。これから生きるために、自分自身を変えたい。」

現地の言葉であるテトゥン語で、若者たちは「foin-sae (フォインーサエ)」と呼ばれます。「foin」は「たった今、ちょうど」、「sae」は「昇る」という意味で、「今から世界に出る、輝いていく」人々という思いが込められています。普段のティモールの「foin-sae」たちはとてもよく笑います。そして人のことを笑わせることも大好きです。一人の少女が言いました。「人生は苦しい。けれど、喜びとともに歩いていく力がある。苦しいことの中から、日々の笑顔を見つけることができる。」一彼らの笑顔は、アジアで一番新しい国、東ティモールの「これから」の息吹を感じさせる、力強さと輝きに満ちています。